

東北の三百名山に挑戦 まやさん いわいがめやま
摩耶山 祝瓶山

参加者 L/K 田 SL/W 田 Y 田 KMSD SZK(記)
行程 10/1 (火) 松戸 19:00=関越道=国 7=国 345=越沢登山口 1:00
10/2 (水) 越沢登山口 8:30-摩耶山 11:00-越沢登山口 13:00
10/3 (木) 民宿大貫 3:00=鶴岡 IC=山形道=西川 IC=祝瓶山荘 6:15
祝瓶山 9:50-祝瓶山 14:00=白石 IC=東北道=松戸 19:40



こんな山です

摩耶山 山形県の南西、日本海近くにあります。磐梯朝日国立公園の大展望台として有名。平安初期から仏教、山伏修行の霊場。摩耶とは釈迦の生母の名。

祝瓶山 朝日連峰の南側に位置する山。岩稜が発達した極めて峻嶮な山容で東北のmatterホルンと呼ばれている。天武天皇の時代から修験道が行われていた。

ちょっと、オーバーに挑戦と題しましたが、どちらの山も急登、岩、急な下りがあり、秋なのにたっぷり汗をかきました。

台風が近づいているということで、急遽、一日早く出発。松戸 19:00 出、新潟経由で登山口に深夜 1:00 着。テントで仮眠。朝 6 時半、バリバリという石をはじくタイヤの音で目覚める。今日は時間に余裕があるので、ゆっくりキノコうどんを食べていると、先程の車で来た地元の方はもう袋いっぱいの舞茸を採ってきて私たちにお裾分けしてくださいました。早速、うどんの残り汁に入れて煮ると、ふわっと香りが漂い、サクサクとした歯ごたえ、これぞ天然ものとありがたくいただきました。



摩耶山

8 時半出発。小国川の清流に沿って歩く中尾根コースから入山。杉林、ブナ林を過ぎると高さ 30m はありそうな弁財天滝が現れる。横に垂直のアルミの梯子がかかっている、緊張しながら登りました。その後は、沢から離れ風通しの悪い林の中の急登を大汗をかきながら 2 時間程登り頂上へ。

頂上からは朝日連峰、鳥海山、佐渡ではなく粟島も見え、辛い登りを忘れさせてくれました。その昔、山頂からの眺めが良いために、庄内藩の防衛上、山止めされていたとか。下りは六体地蔵を見て歴史を感じながら関川コースで登山口に戻りました。

今日の宿は登山口近くの日本海に面した鼠ヶ関の民宿。外観は大丈夫？という宿でしたが食事はお魚尽くし、皆、動けなくなるほど食べ大満足でした。

翌朝は午前3時出発。内陸に入った長井市へ。でこぼこの狭い林道を抜けると祝瓶山荘のある登山口に6時到着。今日は行程が長いのでお弁当を食べ早々に出発。

しばらくは沢沿いの平坦な道で雪樺の林、シダが一面に広がるメルヘンチックな林を歩いていくと、キノコがちらほら見えてきてWさんKさんが騒ぎ始めました。分岐からは昨日の摩耶山に続き急登が始まります。時折、木の間から東北のmatterホルンにふさわしい堂々とした姿が見え隠れし、涼しい風が吹き癒されました。頂上近くになると立って登ることができず、四つん這いになって岩や草の根をつかみながら登り、さすがはmatterホルンと感心してしまいました。

息も絶え絶え頂上に着くと、360°の展望。飯豊、朝日連峰、どちらを見てもどこまでも山が続き、山の真ん中にいる感動に浸りました。

下山は登ってきた道に戻るの危険と判断して、北側の赤鼻尾根へ。こちらの尾根は紅葉が進み、色づいた祝瓶山の勇姿を振り返りながら、色とりどりの林の中を下りました。道すがらキノコ、ミョウガと秋の恵みを収穫して、皆さんとても楽しそうでした。

どちらの山も聞いたこともない山名でしたが、調べてみると歴史のある縁起のいい山名でした。山裾には沢が流れ、落葉広葉樹の豊かな森で、地元の人からは山菜採り、魚釣りや愛されています。山の姿も美しく300名山の名にふさわしい、登り甲斐のある山だと思いました。天気にも恵まれ、奥深い東北の山を満喫できた山行でした。

登山口までのアプローチが大変でリーダーK田さん、KMSDさんが道を調べながら長時間の運転をしてくださりたどり着くことができました。本当にありがとうございました。また、参加の皆様、楽しい山行ありがとうございました。



祝瓶山

怖〜い話

マダニにはくれぐれも気を付けましょう。どこにでもいるんですね。サメの歯のような口をしています。食いついたら離れない取れない訳です。藪の中のお花摘みも要注意です。